ニッポンハム食の未来財団　2019年度第二期　団体活動支援助成　完了報告書

企画活動名	LFA　アレルギー防災ハンドブック講演会
フリガナ	サワイリ　サチヨ
申請者（代表者）氏名	澤入　幸代
団体名（正式名称）	団体名:おまえざきアレルギーっ子の会 申請者の役職・肩書など:代表

１．活動結果要約

令和２年２月２日、LFA　Japanの大森真友子氏と農林水産省大臣官房政策課の渕上恵子氏をお迎えして、“ゼロからみんなで考える”「防災×食物アレルギー」と題した講演会を行う。

スタッフは、横に広い静岡県内からSNSや他会の会員さんなどから有志を募る。

当日参加者は５８名。県内のみならず、県外からも足を運んで下さる方もいた。災害支援団体、保育園・こども園、行政、学生、企業、市議会議員、大学講師、医者、保護者、アレルギーに携わる方など様々な方々が参加して下さった。

講演会の流れとしては、代表の澤入から「講演会のきっかけ」、渕上氏からは過去の災害において食料物資が届くまでにどれくらいの日数がかかったか、ローリングストックの必要性などを盛り込んだ「家庭内備蓄について」、大森氏からは、被災地の声や実際に支援することで気付いた思いをまとめた防災ハンドブックを基に「防災ハンドブック講演会」を行った。その後別室で多数の企業の方々によるアレルギー対応食品の展示会とアレルギー対応食品の試食会を行う。アンケート結果からは、「備蓄の見直しをしようと思う」「アレルギーが落ち着いてきたが子どものために準備をしたい」「職場や学校で広めたい」「食物アレルギーの方がこんなに困っているということを知らなかった」「行政の中でも広めていきたい」などという意見がたくさんきかれた。

２．活動目的

日本各地で大きな災害が多発している中、この静岡県では「大震災がくる」と言われて３０年近くの時間が経過している。過去の大災害においても、アレルギー疾患を持つ人達やその家族がとても辛い思いをされたという話を聞き、もしも今大災害が起きた際に私たちはどうなるのだろうと考えるようになった。同じ患者会のお母さんたちに話をしても、「今は子育てで精いっぱい」「地震が来ても行政がなんとかしてくれるよね」などという声が聞かれ、このままではまた辛い思いを繰り返してしまうのではないか、勇気を出して過去の経験を伝えて下さっている方々の思いを何とかたくさんの方に知ってもらう方法はないだろうかという思いからこの講演会を計画した。

活動地域である御前崎市は交通の便が悪いので、少しでも県内各地たくさんの方々に聞いてもらいたいという思いから、静岡市での開催とした。まずは大森氏の話を聞くことでそれぞれが「知るきっかけ」と「問題意識」を持ちそれぞれの地域にて考えてもらいたいという思いから、この様な形とした。無名の小さな患者会は活動資金もなく、できることは限られているが、助成金を支援して頂くことで可能性が無限に広がるということを今回スタッフの方々も知ることができた。今後、各患者会で同じような活動が増えていき、更に地域でのアレルギー防災の意識向上が図られることも望んでいきたい。

３．活動方法

まず、代表である私自身が講演会という大きな活動に不慣れであり、様々な面で後手後手になってしまった所があり、大変申し訳なく思っています。

各機関へ配るチラシにおいても、一番伝えたいことやパッと目に入る部分など何度も修正を行い、やっと出来上がった際には予定していたスケジュールよりもかなり遅れてしまっていた。

チラシを配布する機関も、各地域の行政・災害支援団体・アレルギー関連の病院、アレルギー対応商品を販売しているスーパーなどを計画していたが人数がなかなか集まらなかった。そのため、色々な団体の代表の方々に相談をし、加えて教育委員会、子育て支援系の団体のホームページ、子ども食堂や男女共同参画センターなどのホームページにも掲載依頼をした。

スタッフとの打ち合わせなどは、それぞれ地域も離れていて仕事や子育てなどあるので主にLINE

上でのやりとりとした。それぞれの地域でチラシを自分の足で配ることで、各機関と少しでも繋がりが持てたのは良い点であった。また、廊下の掲示物用に、スタッフが住む市町の避難想定者数や非常食の数、その中に含まれるアレルギー対応の非常食の数などをまとめた物を作成した。当初の計画にはなかったが、見える化することでとてもわかりやすいものとなった。(添付参照)

また、当初計画していなかったが、託児施設が併設されていたので託児部屋を展示部屋に変更をした。それによって、様々なアレルギー対応商品を実際に知ることでより身近なものとして知ってもらうことができた。アンケート集約・反省会はコロナの影響もありLINE上でのやりとりとした。

４．結果及び波及効果

御前崎市においては、危機管理課の方と市議会議員の方が参加して下さった。御前崎市の危機管理課はもともとアレルギー患者への意識は持って下さっていたが、より深く知って頂くことができた。それもあってか、私の住む地区において部落ごとの備蓄品にアレルギー対応品を増やして頂けた。

これは、私自身が地区の自治会長に要望を出していたこともあるが、すぐに受け付けて下さったのはアレルギー患者に対する理解が一歩進んだからではないかと思われる。市議会議員の方も、定例議会において「アレルギーの備蓄がどうなっているのか」という疑問を投げかけて下さったようで、今までアレルギーと関わりのなかった方々に知って頂くとても良い機会になった。

また、他の地域の行政の方も来て下さり、その地域の患者会の方が「本当に来てくれたんだ」ととても喜んでいた。実際に自分が勇気を出してお願いに行ったことが結果に繋がり、それがお互いの信頼関係にも繋がっていくと感じた。

講演会に参加して下さった患児の保護者も、「子どものアレルギーが軽くなったことで意識が薄れていたが話を聞くことでそれではダメだという思いになれた」などという意見が聞かれた。すぐに全てを変えることは難しいかもしれないが、今後少しずつ形になっていく部分があるのではないかと感じる。

藤枝市で患者会の代表をされている方は、「今後市内でも大森さんに来て頂いて色んな人に知ってもらいたい」という話もあった。

託児を依頼した保育所の所長も、講演会の趣旨を説明する中で「そんな大変な方達がいるのね」と知って頂くことができたし、スタッフそれぞれが各地域を回る中で「自分の子どもにアレルギーがある」ことを説明しながら教育委員会や危機管理課、地元のスーパーの方などと繋がりを持ち、平時に繋がりを持つことの大切さを知ってもらうことができたと思われる。

今回の講演会の結果として目に見えてわかる部分はまだ少ないけれども、今後スタッフや参加して下さった方々がそれぞれの地域の防災訓練などで「そういえば」と思い出してもらえたら、と思う。災害時は小さな声はかき消されてしまうことが心配されるが、今平時に少しずつ声を出して繋がりを広げていってもらえればと思う。

また、急遽決まった展示会については、大森さんのご協力もあり様々な企業の方々が試食品や展示品を提供して下さった。静岡県内で販売されていないものもあり、実際に口にすることでアレルギー疾患のない方々にも「アレルギー対応の商品ってこんな味なんだね」と知ってもらうことができた。これにより、普段口にすることのない方にとっては未知の食品だったものが、少しでも身近なものになることで食物アレルギー自体もより身近に感じてもらえたのではないかと思う。私たち患者会や保護者の方々も、普段は子ども優先で食べさせているものを実際自分も口にすることで改めて気付けた部分もあった。準備や片付けなど大変さはあったが、賑わいのある楽しい展示会となったのではないかと感じた。また、今回SN食品研究所の静岡支店の営業の方が展示会のブースを出して下さった。今までも繋がりのあった企業さんではあったが、この講演会を通して実際に直に打ち合わせなどを行う中でより繋がりが強くなったと感じた。

展示ブースにおいては、子どもたちにスタッフとして試食の提供などを協力してもらった。子ども達に自分のアレルギーと向き合う経験として考えたが、どの子も一生懸命動いてくれていた。どの子どもにとっても良い経験になったのではないかと思う。

そして、今回の一番ありがたく感じたことは、今まで御前崎と掛川の２団体としか繋がっていなかったのが、藤枝、沼津の会と繋がりをもつことができた事だ。そして、新しくできた静岡と富士宮の会と、県内に少しずつ患者会が増えてきていることも知ることができた。この講演会の大きな成果だと感じる。災害時はどうしてもアレルギー患者が孤立しがちだが、少しでも繋がりがあることは勇気と希望に繋がる。今後は、各会が連携して情報交換や悩みの相談などができればと思う。

今回の講演会がどのように今後影響していくかは見えていない部分もあるが、それぞれが問題意識をもって今後も各地域で働きかけをしてくことを強く望みたい。

５．今後の活動について

講演会を行っただけでは「知る」のみだったので、今後はより各地域でたくさんの方々に知ってもらうことと合わせて自分たちの備えの「見直し」も各団体で行っていけたらと思う。

具体的には、少人数で、防災ハンドブックを片手に、今持っている防災リュックを持ち合って実際に「こんなものを入れてみるといいよね」などわかりやすいワークショップが出来たらと思う。

また、せっかく繋がりが持てた各地域での患者会と年に数回でもオンライン上での活動報告などが出来たらと思う。

多団体と繋がりながら、それぞれの団体でより防災への意識の向上、備蓄の充実、行政や教育機関との繋がりが持てていければと考えている。

以上

講演会当日の様子

講演会会場の廊下一面に展示した掲示物。浜松医科大学小児科の夏目医師のご厚意で以前実施したアンケートの集計結果の啓示を行った。
また、スタッフの住んでいる市町の備蓄状況などを危機管理課に問い合わせ、それを一覧にした。

コロナの影響もあり欠席の方もいたが、大勢の方に参加して頂けた。どなたも熱心に話に耳を傾け、「涙が止まらなかった」という意見も聞かれた。

展示会の様子。試食コーナーはとても賑わっていた。
初めて口にする物もあったようで、値段や購入場所など尋ねる方も多かった。

当日の朝の準備から片付けまで子ども達も一生懸命動いてくれた。自分のアレルギーと向き合う良いきっかけともなった。

各患者会の紹介コーナーも作り、色々な方に知って頂くことができた。また、後日地元のテレビにて講演会の様子と食料備蓄の内容が放送された。